

教科等研究会（小学校外国語活動部会） 平成29年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

外国語に親しみ、楽しく積極的に
コミュニケーションを図ろうとする子どもの育成

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	※小中合 同研修会	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/25	29人	嘉島西 小	8/1	木山中		11/24	嘉島西 小	柿本健太 教諭	1/26	広安西 小	安尾洋二 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

ア 小中合同研修会

本部会では、小中連携の一層の強化と外国語の指導力向上を目的に、中学校外国語部会との合同研修会を毎年実施している。本年度は8月に実施し、「小中連携の在り方について」講話を聞き、その後中学校区ごとに各校の英語教育の取組状況や児童・生徒の実態等について情報交換を行った。

○ 講話（西合志第一小学校 末次佐代子校長）

「小学校外国語活動と中学校英語における小中連携をどのように行っていくか」をテーマに話を聞いた。小学校外国語活動と中学校英語の共通点や相違点を知ることで、どのようにつないでいくかを考えることができた。また、小学校外国語活動における文字指導の在り方やコミュニケーション活動を重視した授業づくりについてもご指導頂いた。参加者からは、これからの英語教育の方向性について理解を深めることができてよかったという意見が聞かれた。



末次先生による講話の様子

○ 演習「同一中学校区での班別協議」

郡内8つの中学校区ごとに班を作り、各校における取組状況や成果と課題について紹介し合った。更に小中連携の在り方について協議を行い、今後行うべきことを確認した。各班の発表を聞くと、町ごとに差があることが分かった。小中連携は新学習指導要領の実施に向けて、取り組むべき課題である。本会を第一歩として、今後、相互の授業参観や合同研修会の実施等に繋がっていくことを期待している。



同一中学校区別協議の様子



模擬授業の様子

○ 演習Ⅲ 模擬授業及び、授業研究会

指導力向上を図るための演習として、嘉島西小学校の津山先生と甲斐先生による模擬授業を行った。「Can you?」の表現に慣れ親しませることを目標に、児童が楽しみながら数多く発話するために、どのような活動を行うとよいか学んだ。TIで授業をしたことがない教員も多いことから、研修では1時間の流れを示し、実際にチャンツやゲームなどの活動を体験した。「外国語活動の1時間の過程が分かってよかった」「ぜひ授業でやってみたい」という感想が聞かれた。

イ 授業研究会

○ 第4学年 単元名「What do you want?」

嘉島西小学校 HRT 柿本 健太 教諭
EC 甲斐 成之 講師

嘉島西小学校で行われた小学校英語教育研究推進校中間研究発表会に参加した。4年生では、「家族にオリジナル料理を作るために買い物しよう」という場面設定で、「What do you want?」の表現を使いコミュニケーション活動を行った。表現に慣れ親しませるためのチャンツを繰り返して行い、児童は自信を持って生き生きと活動に取り組んでいた。児童の意欲を高める工夫としてお店屋さんはエプロンと三角巾を着用し、それぞれがなりきって活動していた。また、全員が英語でのやりとりを楽しめるよう円形の間が工夫されていたこともよかった。参観者からは、買い物ゲームで終わりではなく、自分がなぜその食材を買ったかを伝え合う場面もよかったという意見が聞かれた。自分の考えを持ち、友達と伝え合う楽しさを味わうことのできる活動だった。

○ 第5学年 単元名「What would you like?」 広安西小学校 安尾洋二教諭（実践事例参照）

(2) 成果と課題

- 会員数が増え、外国語活動への関心が高まっていることが伺えた。まずは、どのように単元を構成し、どのように1時間の授業を行うのか、そして、どのようなチャンツやゲームが有効なのかを理解する必要がある、2つの授業を通してそれらを学び合うことができた。
- 語彙や表現に慣れ親しませるための活動について協議され、チャンツの方法など多くの指導方法を学ぶことができた。ALTの先生から音声を指導する上でリズムとアクセントが大事だという意見が出された。より自然な英語を習得させるために、ALTとのTT授業やデジタル教材の効果的な活用の他、教員の英語力向上が課題となってくる。
- 小中合同研修会は、小中連携や指導力向上に役立つ内容で好評であった。今後も継続して行いたい。小中合同で教材作りを行うなど、研修内容も検討したい。
- いよいよ来年度から、上益城郡では中学年35時間、高学年70時間の外国語活動に取り組むことになる。しかし、外国語活動の授業をしたことがない、観たことない教員がいるのが実態である。教員の研修は急務であり、本研究会はその一端を担うことになるだろう。今後、新教材を活用しながら、研究を進めていく必要がある。研究会への積極的参加を呼びかけたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

第5学年 単元名 Lesson9 What would you like? “Hi, Friends!1”

〔自評〕

担任主導で行う授業にチャレンジしたいと思った。単元のゴールの設定は、自らの体験を生かしたオーストラリアに設定したが、意欲を持続させることが難しかった。チャンツはタンバリンを使ってリズムやアクセントを意識できるもの考えたが、教師がいかに慣れ親しんでいるかが授業に表れると感じた。児童は普段おとなしいが、今日の活動中は楽しそうにしていた。

〔協議の内容〕

- 円形の間だったが、児童によってやり取りの回数に差があった。誰とでも関わる必要があるような場の設定を工夫するとよかった。
- 評価カードを見ると、初めは「英語が分からない」と書いていた児童が、本時では「楽しかった」と書いていた。苦手意識をもつ児童に意識の変容が見られたのがよかった。
- 英語指導では、リズムとアクセントが大事である。音声から文字指導への流れを確認。
- 英文を出すことについては慎重に行うべきである。意図をもって使用することが大事である。

〔指導助言・講話 熊本県義務教育課 芹川 博文 指導主事〕

必然性のあるコミュニケーションの場面が設定されていた。メニューボードを持つことで児童が店員になりきり意欲的にやりとりを楽しんでいた。エプロンを着用する方法もあるだろう。活動の途中で中間評価を行ったのはよかった。視点を与えて活動させることが大事である。
※講話「新学習指導要領について」外国語科、外国語活動それぞれの目標と内容、さらに新教材についての説明。実際にSmall talkの体験をし、今後の外国語教育について理解を深めた。

(2) 学習指導案

第5学年1組 外国語活動指導案

平成30年1月26日(金) 第5校時

指導者 広安西小学校 教諭 安尾洋二 ALT Sean McCullough

1 単元名 Lesson6 What would you like? ～オリジナルランチを考えよう～ (Hi, friends!1)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、レストランで料理を注文する場面を通して、欲しいものについて英語で丁寧に尋ねたり答えたりすることに慣れ親しむことをねらいとしている。

本単元では、児童に丁寧な言い方で食べ物や飲み物を注文するときに、英語ではどのように表現するのか知らせ、日本語と英語の表現の違いや、英語特有の音声的特徴に気付かせる。また、世界の様々な料理を紹介し、他国の料理に興味を持たせ、文化の違いに対する理解を深められるようにする。そして、チャンツやゲームを通して、欲しいものを英語で尋ねたり答えたりする表現に十分慣れ親しませ、単元の最後に「自分のオリジナルメニューを考えよう」の活動を行い、慣れ親しんだ表現を使ってコミュニケーションを図る楽しさを味わうことができるようにする。

(2) 児童の実態

【男子16名、女子22名 計38名 特別支援学級児童1名含む】※アンケート実施37名

アンケート項目	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない	達成率 (%)
①外国語活動の時間は楽しい。	10	24	1	2	92
②英語を聞いたり話したりすることは好きだ。	4	15	14	4	51
③先生や友達が話す英語を聞き取ることができる。	6	17	12	2	62
④学習した英語を使って自分の気持ちを伝えている。	5	15	13	4	54
⑤できるだけたくさんの人と英語で話してみたい。	6	10	13	8	43
⑥先生や友達の英語を聞いてリアクションをしている。	4	10	16	7	38

ほとんどの児童が外国語活動に楽しく参加している。その理由として「ゲームやクイズなどの活動が楽しい」と答えた児童が多かった。一方で、英語表現が聞き取れなかったり、意味が理解できなかったりする児童がいる。また、アンケートから半数以上の児童が英語で話することに抵抗を感じていることが分かる。その理由として「自信がない」「恥ずかしい」と答えていた。それらの児童が自信を持って参加できるように、聞いたり話したりする場面を多く設定し、英語に慣れ親しませる必要がある。また、英語でコミュニケーションを図る楽しさを実感できる活動の手立てが必要である。

(3) 指導上の留意点

- 単元のゴールとなるコミュニケーション活動として「自分のオリジナルランチを考えよう」を設定する。
伝え合う必然性のある場面を設定することで、英語で食べたい物を尋ねたり答えたりすることへの関心・意欲を高める。第1時にレストランで料理を注文する場面を見せ、ゴールの見通しを持たせる。
- チャンツやゲームなどで英語での表現に慣れ親しませることで、児童が自信を持ってコミュニケーション活動を行うことができるようにする。
- 食べ物の英語表現を導入するときは、日本語と英語の表現や発音の違いに気付かせる。
- チャンツを行う際はリズムやアクセントを意識させ、英語表現に慣れ親しませるようにする。
- 活動を行う際には、その活動における留意点を示し、児童が大事なところに気を付けながら活動を行うことができるようにする。

3 単元の目標

- 食べたい料理を積極的に尋ねたり、答えたりしようとする。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- 英語の音声的特徴に気を付けて、食べたい料理を丁寧な言い方で尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。

【外国語への慣れ親しみ】

- 世界と日本の食文化の違いや日本語と英語での表現や音の違いに気付く。

【言語や文化に関する気付き】

評価規準		
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き
○食べたい料理を積極的に 尋ねたり、答えたりし ようとしている。	○英語の音声的特徴に気を付けて、 食べたい料理を丁寧な言い方で、 尋ねたり答えたりしている。	○日本語と英語の表現や音の違い に気付いている。

4 指導計画（4時間扱い）

時数	目 標	コ	慣	気	活動の概要
第1時	○場面を設定し、単元の活動内容を知る。 ○新しく出てきた単語を知り、日本語と英語での表現や音の違いに気付く。			○	○単元のゴールの説明 ○New Word ○バナナチャンツ
第2時	○欲しいものを丁寧に尋ねる言い方やその答え方を知り、慣れ親しむ。		○	○	○バナナチャンツ○ビンゴ ○What would you like?チャンツ
第3時 (本時)	○丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり、質問に対して自分の欲しいものを伝えたりする。		○		○バナナチャンツ ○What would you like?チャンツ ○たくさん注文してもらおう
第4時	○具体的な場面の中で、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり、質問に対して自分の欲しいものを伝えたりする。 ○オリジナルランチを考え伝え合う。	○			○What would you like?チャンツ ○レストランで注文する場面 ○オリジナルランチの紹介
言語材料（慣れ親しませたい表現）					
What would you like? / I'd like "hamburger".					

5 本時の学習

(1) 本時の目標

○ 英語の音声的特徴に気を付けて、丁寧な言い方で食べたい物を尋ねたり、答えたりする表現に 慣れ親しむ。

(2) 展開（3／4）

過程	学 習 活 動	形	○教師●ALTの支援 <u>評価</u>	備考
見 通 す 10分	1 Greeting あいさつをする。 2 Warm up バナナチャンツをする。 3 Today's goal めあて 店員やお客さんになって食べたい物をたずねたり答えたりしよう。	一 斉	○ジェスチャーをつけて言っている児童を積極的にほめる。 ○●カードを指差し、英語の音声的特徴に意識させながらチャンツを行う。 ○本時のゴールを確認する。	ピク チャー カード
考 え る 10分	4 デモンストレーションを見て、食べたいものの尋ね方や答え方を知る。 5 Activity① Chant チャンツで英語の表現に慣れ親しむ。 店員：What would you like? 客：I'd like pizza. 店員：O.K. pizza. Here you are. 客：Thank you.	一 斉	○●デモンストレーションを行い、英語での表現とその意味に気付かせる。 ●リズムに合わせていくことで、楽しみながら英語の表現に慣れ親しませる。 ○アクセントに注目させ、どこを強調して言えばよいかに気付かせる。 ●内容を明確に伝えられるように、強調したい語を強く発音して、繰り返し練習を行う。	
伝 え あ い ・ 学 び あ う 20分	6 Activity② (1) 円形に机を配置し、店員役とお客さん役に分かれて注文ゲームを行う。 (2) 店員役とお客さん役を入れ替えて行う。 ① 活動の進め方やルールを知る。 ② リハーサルを行い確認する。 ・ペアで練習をする。 ③ たくさんの友達に注文を聞く。 ・客と店員の役割に分かれて、多くの客に注文を聞きに回る。	ペ ア 一 斉	○活動の前にペアでリハーサルを行い自信をもって活動に移れるようにする。 ○●机間指導を行い、表現の仕方が分からない児童にアドバイスをする。 ○●活動の途中で評価を行う。英語のリズムやアクセントに気を付けて活動している児童を紹介し、全員に意識させる。 【評価】 英語の音声的特徴に気を付けて、食べたい料理を尋ねたり、答えたりしている。 (外国語への慣れ親しみ)	メニ ュー 表 メニ ュー ボー ド
確 か め る 5分	7 Review ふり返しシートに記入し、発表する。 8 Ending あいさつをする。	個 別	○机間指導を行い、評価内容を把握し、書けていない児童に支援を行う。 ○●本時のねらいに即してよかったところを賞賛する。英語のリズムやアクセントを意識して活動していた児童をほめる。	ふり 返し シート